



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 2 (R7. 5. 28)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



時を経て、変化する「よつわ運動会」 ～変わらない6年生のリーダーシップ～

校長 ○○ ○○

先日、5月24日に田尻小学校の運動会が開催され、多くの地域の皆様、保護者の皆様の歓声を浴びて、児童の元気な姿を運動会の中でお見せすることができたように思っています。

自分の子どもの頃の運動会を振り返ると、安全ピンにリボンが付いた等賞を赤白帽子にいつまでも付けていたことを思い出します。定かではありませんが、1等は紫色だったように記憶があります。聖徳太子の冠位12階で役人の最上位の位に紫色の冠を授けたことから、1等が紫色だったのかと思っています。もちろん、学校によって1等の色は違ったかと思っています。今は、安全ピンが危険であることから、等賞シールに変わりました。時代とともに、変化していることも感じています。

日本ではじめて開催された運動会は、1874年(明治7年)3月21日に東京・築地の海軍兵学校で行われた「競闘遊戯会」と言われています。当時の日本にはスポーツという概念がほとんどなく、海軍兵学校の授業は教室に座って学ぶ座学ばかりで、身体を動かす機会が多くなかったようです。そのため、イギリス海軍顧問団の団長アーチボルドさんは、学生のストレスを発散させるための運動として、日本最初の運動会「競闘遊戯会」の開催を推奨したそうです。

「二人三脚」「むかで競争」「パン食い競争」など、徒競走などの脚力だけでなく、知力や運も必要とする競技も含まれていたようです。私自身の子どもの頃も、「二人三脚」などは定番の種目でした。

柏崎市内の小学校はほとんど5月中旬から下旬にかけて運動会を開催していますが、他県では9月や10月に開催している県もあります。地球温暖化の影響で、気温の上昇がみられ始め、5月中旬であっても熱中症の心配が出てきています。田尻小学校でも、クールダウンタイムを設定し、水分補給の時間、体を休める時間を取り、運営しました。午前中開催についても定着してきています。児童の様子を見てみると、運動会練習で外での活動があると、体の不調を訴える児童の数が急激に増えてきていることが分かります。外遊びがなかなかできなかったコロナ禍の影響もあり、児童の体力不足と、心の面での繊細さが見えています。児童の心と体の状態に寄り添いながら、心を育て、体をつくるため、日々の教育活動を展開していくつもりです。ご家庭でも、我が子の状態を見つめ、休日の過ごし方を意識していただきたいと思います。ゴールデンエイジと言われる9歳から12歳頃は、最も運動神経が発達すると言われており、その神経は12歳ごろまでで大人と同程度の神経発達となると言われています。運動を積極的に取り組む児童と遠ざかり気味の児童との2極化が見られ始めています。

職員会議で提案された運動会の計画には、タイトルが「よつわ運動会実施計画案」となっています。児童の主体性を伸ばした運動会にしたいという職員の願いが込められています。いつの時代も変わらないのは、最高学年である6年生のリーダーシップにより、運動会が成立していることです。今年の6年生であるあおぞら学年の応援団、各委員会担当の仕事等の様子を見てみると、自分たちも今までの運動会のように、またそれ以上の運動会にしようという思いが感じられました。

今年の運動会も皆様のおかげで無事終わることができました。ありがとうございます。